

第134 スタジオ夜話

サウンドドラマ制作 演出と技術

☆ はじめに

大雨警報、土砂災害警報など日本の気候がおかしくなっています。世界中でこうした状況が続いており、もう終わることの無い危機的状況です。私達はこうした状況で暮らすことを余儀なくされているのです。サバイバルできる生活が必要になってきています。以前台風で丸一日停電した時、自家発電で冷蔵庫給湯器、通信関連、電灯はなんとかしました。ガスはLPGなのでローカルで賄えます。水道は土砂崩れなどがなければ供給は問題ありません。誰でもご自宅で非常時に備え対策を考えなければならぬ今日この頃、自家発電機はヤフオクで20A位でも3万円でOKです。是非お備えください。

さて今回のスタジオ夜話は前回の続きです。収録例を基に、より具体的にお話します。今回は基本中の基本「キモ」のお話です。お付き合いよろしくお願いいたします。

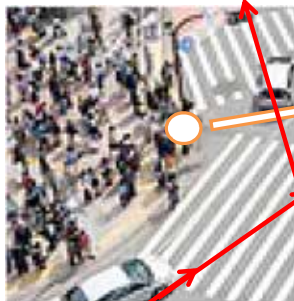
☆ 具体的制作技法 6 (具体例)

前回の具体的制作技法4の[場面設定の具体例]を基本にお話します。この作品は通常のステレオ収録で、このシーンはオールロケで行われました。ロケハンで問題点や様々な計画が明らかになりました。ひとつずつ問題を検討して本番に備えます。

1) モニタリング

現在様々な現場では(効果音ロケ収録等々)ヘッドホンを使ってモニタリングしています。サウンドドラマ制作ではこれが後々制作に手こずる原因ともなります。確

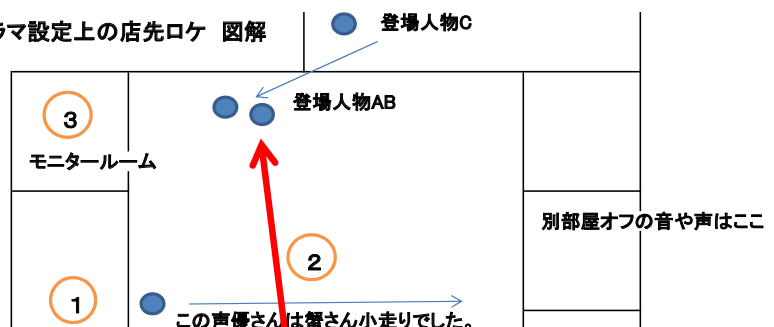
渋谷スクランブル交差点



マイクロフォンの位置は左の写真の赤丸位置です。信号機のポール下で矢印方向に109があります。手持ちの小型ICステレオレコーダーです。なるべく目立たないようにするのが基本。バイクは線の通りに移動し

人の歩く音、周囲の雑踏、車の音、バイクの音、全ての音は綺麗に収録されているのですが、スピーカーで再生すると決してバイクの音は線のとおり移動しているようには聴こえません。また人々の歩く雑踏も見た目とは全く違った音として再生されます。スピーカー再生した時、見た目のように収録するには工夫が必要です。収録音のクオリティーや雰囲気は十分ですがサウンドドラマの音はシチュエーション設定が重要なので、この設定には創意工夫・手間暇をかけて取り組まなくてはなりません。

ドラマ設定上の店先ロケ 図解



- ①はガラガラと開閉する引戸の玄関中は土間と上がり框
 - ②は手前3尺幅の内縁側の大広間、中は畳座敷 およそ30畳以上
 - ③は8畳の和室、モニタリングルームとしました。
- 建物手前は踏み固められた土の庭で建物の2倍以上の広さがあります。

赤の本線矢印はSM69の移動を表します。移動と同時に音像幅も変化
登場人物ABの前に台詞用U87を立てました。

この四角のエリア内で声優さんとスタッフが動き回ります

U87

U87



U87の距離間約10m

当初無指向に設定したが後に中抜け感がある単一指向性に変更





渋谷公園通りからバスケットストリート、渋谷センター街を抜けて、スクランブル交差点に出る。いつの間にか新たなビルがニョキニョキタイムスリップしたような感覚に陥ります。(mo)

かにスケジュールや予算の関係でやむを得ない点も多々ありますが、スタジオ夜話的には創意工夫、手間暇が重要で質の良い作品創りには避けては通れない一面です。このヘッドホンモニタリングでは音そのものの質や外来ノイズなどの確認はできませんが収録音の遠近や拡がり感などを判断するにはいささか問題があります。またこれは重要な「キモ」なのですが「収録現場で観た状況に聴覚が引っ張られる」という現象です。これは視覚か？聴覚か？という人間の本質的問題です。筆者はこの分野の専門家では無いので経験値からのお話になります。

図の渋谷のスクランブル交差点でワンポイントステレオマイクロフォンで雑踏をロケしてみたことがあります。マイクロフォンは収録位置から交差点中央に向けて腰の位置で構えています。交差点で人々が青信号で横断、赤信号で車が往来しています。JR ガード方面からややうるさいバイクが

やってきて交差点を左折し、目の前を通過、ヘッドホンでモニタリングしています。間違いなく眼前に広がる光景と同じ音がモニタリングできています。この素材を持ち帰り調整室で再生します。この時の音は目にした光景とは全く違ったものでした。モノラルで再生すると遠近感や音量の大小はあるものの概ね目にした光景に近いものでしたが、ステレオ再生では全く違う空間を表現していました。筆者はこうした音ロケを何百と行ってきましたが結果は同様でした。つまりヘッドホンでのモニタリングでは単一音での収録では問題ないのですが、シュチエーション設定での空間要素のある複数音の収録には不向きなモニタリング方法であるといえます。やはり収録場所とは別の環境でスピーカー再生のモニタリングが必要です。前回のスタジオ夜話でのロケ収録場所にはロケ場所に別部屋を用意してモニタリングできる環境があるとお話をしました。収録ミキシングにはスチューダーのミキ

サー 169 を用意して小型のデンオンのパワードスピーカーでモニタリングすることにしました。

2) 使用マイクロフォンとセッティング

前回お話したようにマイクロフォンはメインはノイマン 69 (MS 方式のマイクロフォン) ディレクションミキサーは同胞のものは使わずスチューダー 169 のインサージョンへ花岡無線製の NHK 仕様のディレクションミキサーを用意しました。二つのつまみで音幅と定位 (位相) の調整ができます。全体の背景音収録にはペアでノイマンの U87 を用意、一応ゼンハイザー 416 (ガンマイク) を 2 本用意しました。主となる台詞収録にはモノラルでやはりノイマン U87 を使います。スチューダー 169 は入力 10CH あり十分すぎるスペックです。

3) モニタリング以外の出力?

スタジオなどで効果音を創る場合などよく行うテクニックで、スピーカーから素材音を再生し、それを再びマイクロフォン収録することがあります。お話しているシュチエーション設定音でもその方法が必要なケースが2シーンありました。実際のロケ収録の様子をお話します。

☆ 具体的制作技法 7 (具体例)

1 日目)

実際のロケ現場ではまず始めに出演者の位置と動きと台詞のタイミングが重要になります。マイクロフォンなどセッティングせりリハーサルを行います。

図は出演者の配置と動きを示しています。(3分ほどの台本を7組分用意) 実際にこのシーンは30秒から1分位を使うので十分な長さです。後は各組が台詞を始めるタイミングです。また台詞は時によって他の組への呼びかけもあります。リアクション、アドリブも重要です。台詞は想定できるものは予め用意してあります。また事前に舞台は昔の京都下町、当然京都弁は出演者全員が声優で方言指導者の市川千恵子師の特訓を受けています。

また店先を荷車が通るので木製の荷車が必要となりますがこれがありません。走行音が出ないリヤカーにスピーカーを載せ効果音ライブラリーから選んできた荷車の音を再生しながら移動する策に出ます。この

作業を丸一日行います。全体が観ていて自然に流れることが最も重要です。

2 日目)

いよいよマイクロフォンのセッティングです。ドラマのシュチエーション設定に基づくセッティングがポイントです。シーン全体を収録するノイマンU872本をストレートの太マイクスタンドにセッティングします。大マイクロフォンスタンドは全高3m近いものです。2本のマイクロフォン距離間は約10m 指向性を単一にするとモニタリングスピーカー間距離が2mだとマイクロフォンから5m以上離れた音源は中抜け感が顕著になります。無指向にセッティングすると中抜け感は多少改善されます。このマイクロフォンは収録中は移動しません。メインマイクはSM69です。このマイクロフォンは手持ちで収録の際移動します。また台詞収録のU87は双指向性で屋内登場人物ABCの中央にセッティングしました。SM69はとりあえずスタンドセッティングでU87(台詞側)から3mほどの所にスタンドで立てておきます。役者さんに動いて演技してもらい、おおよそのマイクロフォン音量の確認をします。これが重要な最初のセッティングです。最初は大スタンドのU87とSM69との整合性に重点をおきます。ディレクションミキサーの音像幅は最大の設定で、位相関係、定位も正常のままU87と切り替えたりしながらミックスしてみます。この時U87の距

離間を若干調整することにもなります。自然な拡がり感を持つ空間になればまず第一関門は突破しました。ここからが腕の見せ所です。声優さんの声の大きさや発声する向きによって見た目には不自然でも立ち位置や向きをモニタリングしながら調整します。まだ移動はありません。この時、店の奥、登場人物3人の台詞は聞こえません。一応台詞用のU87が生きているかだけフェーダーを上げ確認しておきます。次はSM69の移動です。マイクロフォンをスタンドから手持ちに変更します。全ての声優さんにその場で同時に台詞をスタートさせ、SM69を奥の3人の方へ欲しいスピードで移動(2m位の所まで)します。モニタリングしていると移動感がよくでているのですが映像的なドリーイン感がイマイチです。

U87との音量差を調整しながら音像幅を狭めていきます。ミキサーは2人以上必要です。台詞用U87は双指向で使いましたが結果単一指向でSM69と声優さんの間ぐらい、声優さん一人はさらに奥から台詞の中に移動しながら加わる演出に変わり、ドリーイン感と上手くU87をフェードインすることで空間性が再現できました。次に他の声優さん達の動きです。動きに必要な荷物など小道具は音的な要素を考慮したものを用意してあります。SM69を移動しながらモニタリング、声優さんの台詞スタートや動きのタイミングを一組ごとにテストして行きます。モニタリングして決め

て行くのですが、見た目にはとても想像できない動きになってしまいました。蟹さん歩きや移動方向が想定外、台詞を言いながら移動して後ろ向き……等々です。声優さん達には感謝です。荷物や小道具を本来は登場人物が動かしているのですが実際にやらせようとそうに聞こえないことも出てきました。その時は演出側のスタッフがモニタリングしているスタッフの指示に従って場所や移動をしながら音を出していました。荷車は単体ではそれらしく聞こえる音でしたが同時だと全ての音に音量だけの問題では無く勝ってしまいました。脚本を訂正して一番冒頭の音単独移動音から全体音がクロスフェードインする設定に変更になりました。付け加えればガンマイクも小道具の音を適度な距離をもって加えることで有効に使えることもわかりました。2日目はパートパートでテスト収録しながらの作業でした。感想は聞くと見るとは大違い!です。

3日目)

いよいよ収録本番です。昨日はテスト収録した音を何度もモニタリングしてスタッフ・声優さん全員で今日に備えました。シュチエーション設定と同じ実時間で臨みます。千葉館山の山中の場所柄、運よく鳥も鳴き、なんと収録時間(午前10時)でもかなり遠くで鶏も数回鳴いてくれました。モニタリングしながら4テイク収録、別録りを含めて午後1時には終了しました。後処理で

は無く、一発生収録の緊張感には格別の想いがあります。創意工夫・手間暇のロケ収録でした。

☆ 具体的制作技法 8 (具体例)

効果音のスピーカー出し収録のもう一例は「シュチエーション設定」秋の夜、遠くに料亭の宴会の音、石畳の細い道を登場人物が独り言を言いながら歩いている。辺りには虫の声という設定でした。これも館山ロケの時に収録しました。前の店先のシーンで利用した建物内で宴会の音をスピーカー出しします。宴会はロケ出発前にスタジオで宴会を催しその音を収録、長唄の三味線演奏者、太鼓の演奏者と立ち方を加えたプロ3人とスタッフ7人のアルコール無しの宴会です。立ち方さんに宴会遊びを教えていただきながら唄や踊りの宴会でした。6mm7インチに収録、デンオン製のトラックに入った業務用レコーダーで再生してスピーカー出ししました。独り言はシュアースM11(小型のクリップタイプ)で収録、声優さんと一緒にSM69で歩きをフォロースピーカー出しの建物から50mぐらい離れた昔の神社の石畳で収録しました。季節は夏で程よく虫が無き下駄の足音を含め空気感ある音にしあがっています。遠くで聞こえる宴会の唄も良い感じの遠近感です。歌に合わせた声優さんのアドリブの鼻唄がとても良い感じでした。この時も別場所ですピーカーによるモニタリングを行ってい

ました。今回はステレオ収録のお話でしたがこれが基本「キモ」です。モニタリングも聴く人の環境を考えて場面設定に合わせた収録が出来ているかを見極めることが大切です。今時、有り得ない作業かと思いますが、これが正しい取り組みです。時間やコスパはサウンドドラマ制作には関係の無い話です。制作に取り組む姿勢を今一度ご確認ください。

☆ 次回は

サウンドドラマ制作のお話は夏休み、オーディオにかかわる何か面白いお話をご紹介します。お楽しみに!いよいよ暑い夏がやってきます。台風やゲリラ豪雨もありそうです。読者皆様が健康にお過ごし出来ることをお祈り申し上げます。